重要なお知らせ

国際学類のカリキュラムが
2022(令和4) 年度に
現在のコース制から
プログラム制に変更となります

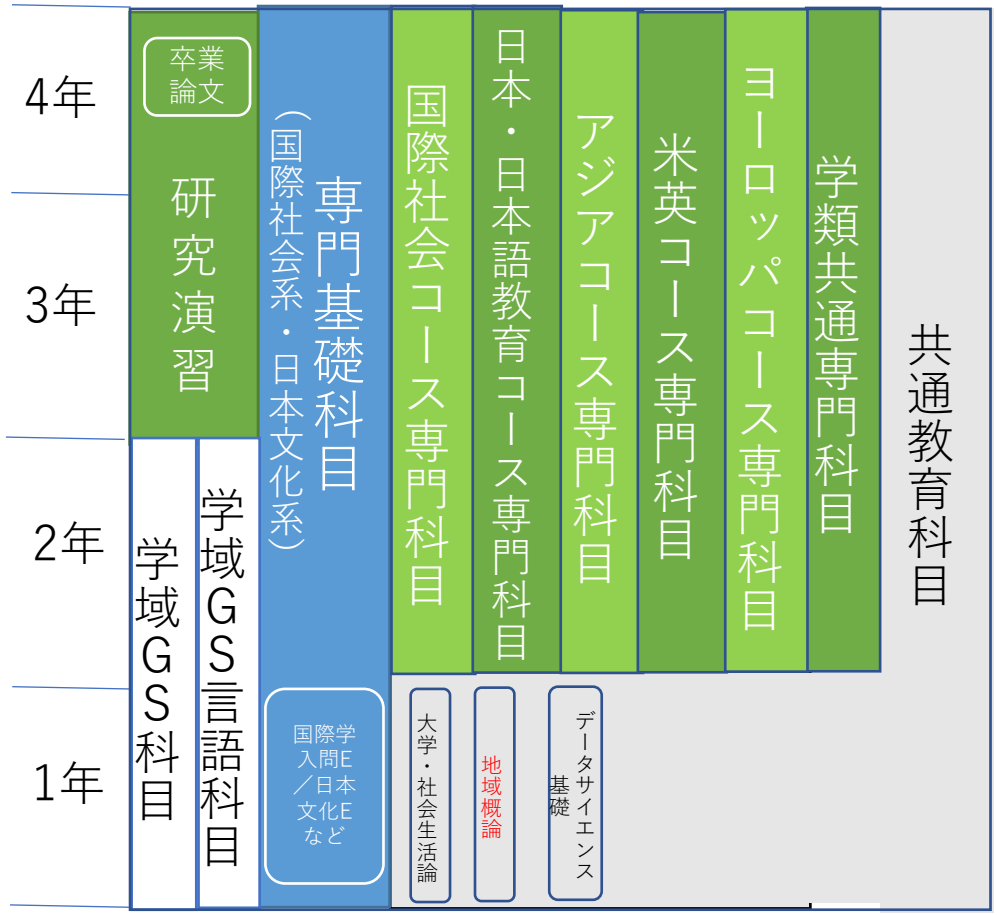
- 国際学類では、2008年の発足以来、「異文化との《しなやかな共生》を実現できる真の国際人の育成」*を基本コンセプトに、5コース制（国際社会、日本・日本語教育、アジア、米英、ヨーロッパ）のカリキュラムを組んできました。

＊「異文化との《しなやかな共生》を実現できる真の国際人の育成」とは、
- 基礎として外国語運用能力を育成
- 外国・異文化に強い関心を持ち、世界の多様性についての理解とそれに柔軟に対応できる知性・感性（＝学問的訓練を積むことで得られる冷静で緻密な知性と多様な人々との接触の中ではぐくまれる柔軟で鋭い感性）を育成

現在のコース制カリキュラムの全体像と
現状への問題意識は次のスライド

国際学類の従来カリキュラム

科目区分イメージ



1年：国際学の基礎、言語能力の養成
2年：コース分属、コース専門の基礎
3年：ゼミ配属、専門性の獲得
4年：卒論

海外体験

コンセプト：グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への深い洞察力を持ち、異文化との＜しなやかな共生＞を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国･異文化への関心・探究心とコミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務につきたい人を受け入れます。国際社会の諸問題と日本のアイデンティティーについての知識･理解を持たせ、外国語の運用能力を身に付けさせます。

国際社会コース：グローバル化する国際社会において、政治経済の観点から物事を読み解く力を持った国際人の育成

日本・日本語教育コース：日本と日本語について深い理解と知識を持つ国際人の育成／日本語教育の実践力養成を重視したカリキュラム

アジアコース：アジアの多様性を学び理解する教育／英語やアジア諸言語の運用能力の高い人材育成

米英コース：国際的分野で活躍できる英語圏専門家の育成／知識に裏打ちされたコミュニケーション能力の養成

ヨーロッパコース：ヨーロッパへの関心を原点とする国際人の育成／生きたヨーロッパ世界との交流を重視する教育

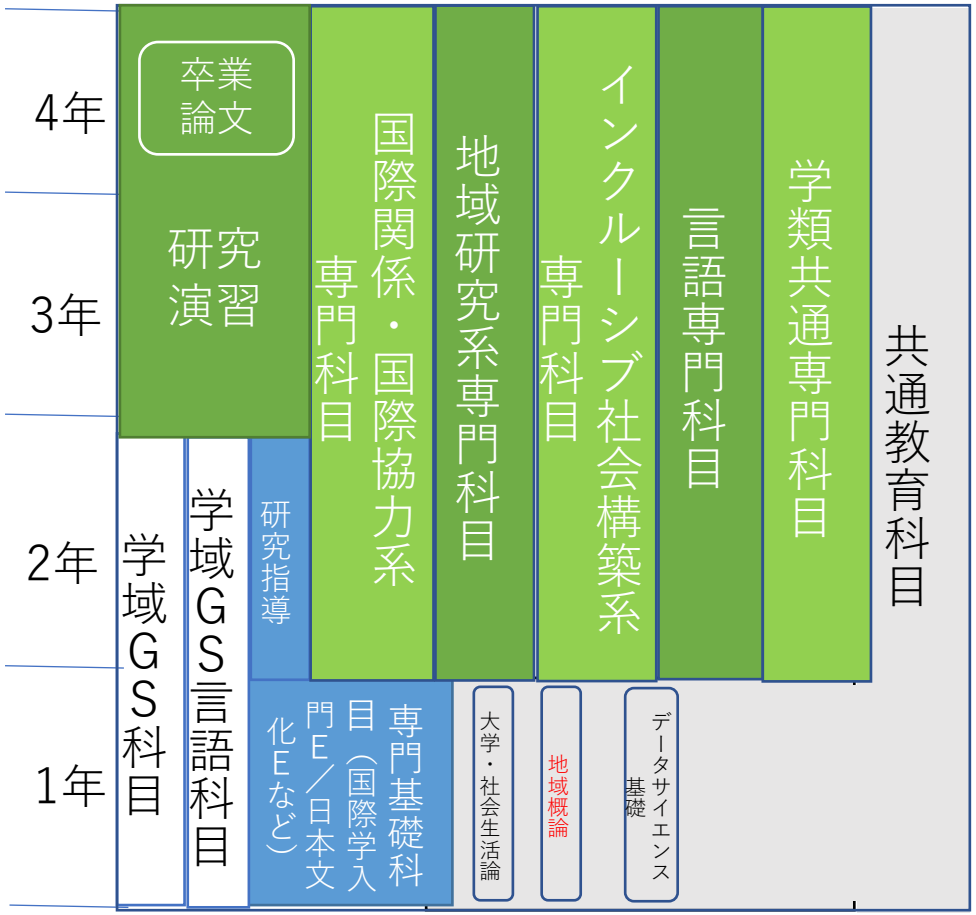
現状への問題意識：「国際系学部」が全国に多数設置されるなかで埋没せずに特色を出すにはどのようにすべきか／コースの固定的在り方を打破して、現代社会や学生のニーズに合ったより柔軟な教育の必要性

- 前スライドで挙げた問題意識以外にも、英語のみで卒業できるプログラムもあるが可視化できていない、2年生時の指導が弱い、という問題点が指摘されていました。
- ただ、どうしても固定的になりがちなコース制ですが、研究室システムによって学年を超えた学習共同体がつくられ、学生たちの活発な活動が見られたのも事実です。
- そうしたコース制のもつ良さを残しつつ、時代や学生のニーズに合った、より柔軟な学びの在り方を実現するにはどうしたらよいかを検討し、行き着いたのが「プログラム制」へのカリキュラムの変更です。

プログラム制新カリキュラムの全体像は次のスライド

国際学類の新カリキュラム

科目区分イメージ



1年：国際学の基礎、言語能力の養成
2年：複数プログラムの登録、研究指導
3年：主(副)プログラム登録、ゼミ配属
4年：卒論

海外体験

コンセプト：グローバル化が進んだ21世紀に、国際社会への深い洞察力を持ち、異文化との＜しなやかな共生＞を実現できる真の国際人を育成することを目的とし、外国･異文化への関心・探究心とコミュニケーション能力を持ち、将来国際的業務につきたい人を受け入れます。国際社会の諸問題と日本のアイデンティティーについての知識･理解を持たせ、外国語の運用能力を身に付けさせます。

国際関係・国際協力系プログラム：グローバル化時代における新たな課題に対応するため、国際関係の政治・経済の仕組みを理解し、国際協力への道筋を探ることのできる国際人を育成する／アプローチの仕方の相違に基づく、国際政治、国際政治E、国際経済、国際経済E、の4プログラム　＊Eは英語のみで卒業できるプログラム

地域研究系プログラム：日本を含む世界各地域についての深い理解を基礎として、世界の多様性に対応できる国際人を育成する／対象地域の相違に基づく、英語圏研究、英語圏研究E、ヨーロッパ圏研究、アジア・日本研究、の4プログラム

インクルーシブ社会構築系プログラム：グローバル化する現代世界のなかで、多様な文化・宗教・ジェンダー認識等を持つ人々が参加できる社会の構築に寄与する国際人を育成する／構築に向けた課題の相違に基づく、グローバルDEI（Diversity, Equity & Inclusion）、日本語教育、の2プログラム

プログラム制の利点：コース制より柔軟で多様な学びが可能／英語プログラムを可視化／変更・追加がしやすい

- 学類のコンセプトはそのままです。
- 1年で専門の基礎を学んだあと、2年で複数のプログラムを登録し、3年で主専攻プログラムとゼミを選択し(副専攻プログラムも選択可です）、4年で卒論を書いて卒業するという「経過選択制」です。
- 2年で希望をもとに研究室配属をし、3年の主専攻プログラム決定時に主専攻に基づいて再配属をおこないます。
- 2年に「研究指導」を新設し、指導とピア学習を強化します。
- プログラムは3系10プログラムで構成され、そのなかには3つの英語プログラムが存在します。英語プログラムは副専攻にもなります。

3系10プログラムのイメージは次のスライド

各プログラムの具体的な内容はその次のスライドから

来年度から新カリキュラム＝プログラム制に移行

国際関係・国際協力系

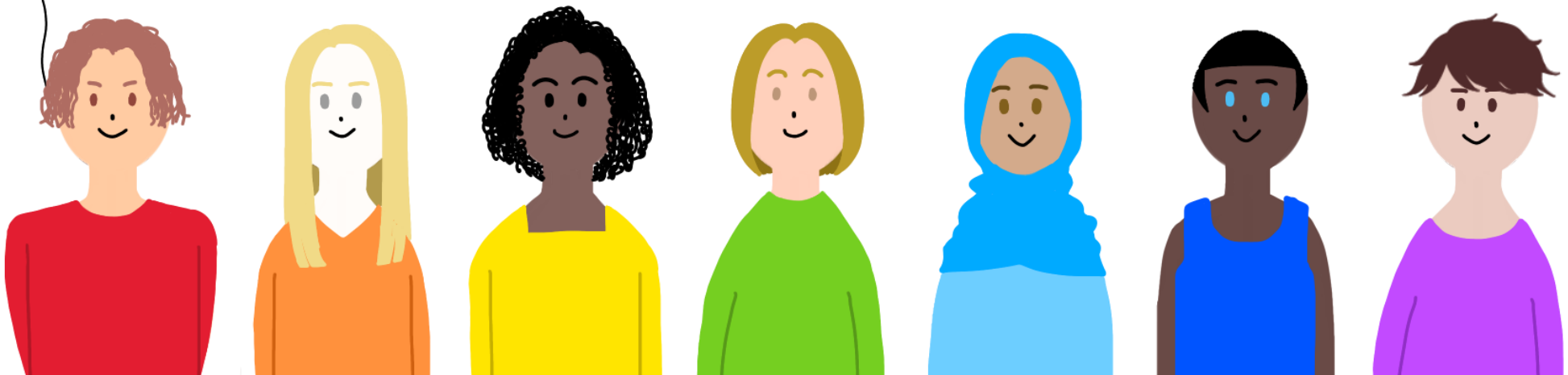
国際政治／国際政治E
国際経済／国際経済E

地域研究系

英語圏研究／英語圏研究E
ヨーロッパ圏研究／アジア・日本研究

インクルーシブ社会構築系

グローバル DEI
日本語教育



イラスト：
国際学類2年
志摩千紘

国際関係・国際協力系

国際政治プログラム	国際社会や国家の政治制度、および、その制度を支えるシステムの構造を理解し、国際機構・国家の政策やその社会を構成する組織や人々の行動を分析します。政治学、社会学、歴史学等の学問諸領域の知見を生かしながら、一見、局地的・単発的と思われる国際社会の問題に関してもグローバルな視点から考察する能力の修得を目指します。
同Eプログラム	
国際経済プログラム	国際貿易、国際金融、国際ビジネス、先進国と途上国の格差問題、持続可能な経済発展について、その現状とメカニズムを理解し、各国政府の政策や企業、人々の行動を分析します。国際経済学、開発経済学を基礎に政治学、社会学、歴史学、経営学の知見を取り入れてグローバル社会における様々な経済問題をマクロ・ミクロ両面から議論する能力の修得を目指します。
同Eプログラム	

地域研究系

英語圏研究プログラム	歴史学、文化人類学、および文学・文化研究の立場から、英語圏世界について横断的かつ深い知識を身につけます。英語運用の実践的訓練を兼ねた演習形式の授業を通じ、英語圏の歴史、社会、文化を分析し、多様な文化的背景を持つ人々との共生を目指す国際人に必要な知的基盤と能力の修得を目指します。
同Eプログラム	
ヨーロッパ圏研究プログラム	ヨーロッパ世界とその関連諸地域について、人文社会科学の様々な研究手法を通じ認識を深めます。英語に加え欧州諸言語の実践的運用能力を伸ばしながら、環境、人権、福祉、観光といった諸分野に見るヨーロッパの現在を複眼的に把握する能力の修得を目指します。
アジア・日本研究プログラム	日本を含むアジア諸地域について、人文社会科学の様々なアプローチを用いて分析します。他の地域との比較から、俯瞰的に日本やアジアの文化・社会を考察し、専門知識に裏打ちされた自らの思考を論理的に、正確かつ高度な外国語を使って表現する能力の修得を目指します。

インクルーシブ社会構築系

グローバルDEIプログラム	DEIとはDiversity, Equity & Inclusion（多様性、公正さ、共生）のこと。現代社会における多様性、公正さ、共生に関する諸問題について、人文社会科学の様々な研究手法を通じ認識を深めます。多様性に富んだ公正かつインクルーシブな社会の構築に向けて、文化・宗教・ジェンダー・セクシュアリティ等に関する視野を広げ、そこで得られた知見をもとに現代社会を多層的に考察する能力の修得を目指します。
日本語教育プログラム	日本語教員養成（主専攻）のための専門科目50単位を中心に学び、日本語や日本語教育、日本文化の専門知識はもちろん、「日本語教授法」「日本語教育実習」等の演習・実習科目で実践力を身につけます。グローバル時代の国際社会や日本社会についての理解と、外国語でのコミュニケーション力を生かして日本語を教える能力の修得を目指します。

- 説明の補足
  - 各プログラムは５科目群のなかから授業科目をグルーピングして構成されます。(現在、グルーピングの作業中です。明確になり次第公表します。)
  - 各プログラムには専任の責任教員と準専任教員が所属します。
  - 主専攻として選択したプログラムを、途中でほかのプログラムに、変更することもできます。
  - 卒業要件として、卒論(6単位必修）、研究演習(4単位必修）、主専攻プログラム（26単位以上）を予定しています。(変更の可能性あり)

プログラム制以外もいれた教育システムの全体的特色は次のスライド

教育システムの特色

- 学問の基礎に根ざしつつ、国際社会のニーズに応える多彩な科目
- 実践的な英語と各地域言語の習得(中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語など)
- 日本の文化や異文化に対する理解を深める広角度のカリキュラム
- 海外提携大学などへの研修・留学の励行、そのための十分な支援体制
- 各分野の専門家による少人数教育、丁寧な卒業論文指導
- 2年次に複数のプログラムを選択し、その中から3年次に主専攻プログラムを決定する
- 広く柔軟な学問的知識を身に着けるとともに、より明確な問題意識で専門分野の知見を深める